

## この 1 年の進捗

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課  
五十嵐 麻理世

国際子ども図書館は、今年（2010 年）5 月、開館 10 周年を迎えました。今年は、開館 10 周年と 2010 年国民読書年を記念した展示会やイベントを数々開催しています。2 月 20 日から 9 月 5 日まで、日本語の原書と 30 以上の国・地域で出版された翻訳版など合わせて約 300 点を展示した「日本発☆子どもの本、海を渡る」を開催しました。ちなみに、日本の児童書が最も多く翻訳されている国は韓国です。9 月 18 日から 2011 年 2 月 6 日まで、「絵本の黄金時代 1920～1930 年代 ー子どもたちに託された伝言」を開催中です。のちほどミュージアムでご覧ください。

開館以来 10 年間、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念のもと、さまざまな活動を行ってきましたが、次の 10 年に向けて、よりサービスや機能を拡充するべく、今までの活動を見直し、新たな一步を踏み出す時期にきています。

昨年 11 月の日韓業務交流では、国際子ども図書館の概要をご紹介させていただきましたので、今回はこの 1 年に新たに開始、あるいは強化した業務・サービスについてご紹介したいと思います。

### 1. 「国際子ども図書館中期活動方針 2009」

2009 年 12 月 1 日に、新館オープンまでの今後 6 年間を対象とした「国際子ども図書館中期活動方針 2009」を策定しました。その中で、次の 3 つの国際子ども図書館の基本的な役割を確認しました。

#### (1) 児童書専門図書館としての役割

国内外の児童書及び関連資料を広範に収集・保存・提供するとともに、調査研究、研修、情報発信等を通して、児童書や子どもの読書にかかわる多様な活動を支援する。

#### (2) 子どもと本のふれあいの場としての役割

国内外の児童書の提供、各種催物、見学、情報発信等を通して、すべての子どもを対象として図書館や読書に親しむきっかけを提供する。

### (3) 子どもの本のミュージアムとしての役割

児童書に関する展示会やそれに関連した講演会、各種イベント等を通して、児童書の持つ魅力を広く一般に紹介する。

これらの役割を果たす上で、より広範な利用者へ、より効率的かつ効果的なサービスを提供するため、特に次の事項に留意することにした。

- (1) 子どもの読書活動の推進に係る取組の強化
- (2) インターネットサービスの拡充
- (3) 中央館との一体的な業務・サービスの推進
- (4) 国内外の関係諸機関との連携・協力の強化

次に、この活動方針を踏まえて行ってきた各種サービスをご紹介します。

## 2. 子どもの読書活動の推進に係る取組の強化

### (ア) 子どもと本をつなぐ人のページの新設

2010年3月30日に、児童サービス関係者の子どもの読書活動推進に係る取組を支援するために、「子どもと本をつなぐ人のページ」を新設しました。日本国内の各自治体が策定した子ども読書活動推進計画や子どもの読書活動に関する調査、各種資料リスト、当館の児童サービス事例などを紹介しています。「国内の研修・講座情報」では、都道府県立図書館や関連機関等で開催される子どもと本に関する研修、講座、講演会等の情報を掲載しています。「関連機関等リンク集」では、各地の学校図書館支援センターや児童書コレクションを有する主な図書館・大学等、約300機関を収載しています。主に日本国内の子どもを対象としたウェブサイトを集めた「キッズページリンク集」では、現在約1,700件のキッズページを収載しています。

(子どもと本をつなぐ人のページ：<http://www.kodomo.go.jp/mediator/index.html>)

### (イ) 国際子ども図書館メールマガジンの創刊

2010年3月31日に、メールマガジンを創刊しました。当館の催し物や各種サービスのほか、国内外の児童書関連分野の動向などの情報も提供しています。

9月までの間に13号発行し、約1,000人の方にお読みいただいています。

### (ウ) 国立国会図書館キッズページ

2010年4月23日に、「国立国会図書館キッズページ」を新設しました。のちほど詳しくご紹介します。

### (エ) 「子どもの読書活動推進支援計画 2010」

2010年9月2日、「子どもの読書活動推進支援計画 2010」を策定しました。これは先に述べた「国際子ども図書館中期活動方針 2009」に基づき、児童サービス関係者の子どもの読書活動の推進に係る取組を支援するために、2014年度までの5年間に当館がどのような立場で何をしようとしているかを示すものです。

この時期は、新館建設期間と重なるため、支援内容は、現状の施設的な制約の中で取り組むことができるサービスを中心としています。

(子どもの読書活動推進支援計画 2010 : <http://www.kodomo.go.jp/profile/laws/suishin2010.html>)

## 3. インターネットサービスの拡充

### (ア) 資料のデジタル化

2010年1月6日、国立国会図書館所蔵の1955年以前に日本で刊行された児童書の全文画像を閲覧できるサービス「児童書デジタルライブラリー」に、293タイトルを追加しました。これで合計1,980タイトルが閲覧できるようになりました。

(児童書デジタルライブラリー :

<http://kodomo4.kodomo.go.jp/web/ippangz/html/TOP.html>)

5月5日、デジタルミュージアム「絵本ギャラリー」の『『コドモノクニ』掲載作品検索』に、約3,200点の画像を追加しました。「コドモノクニ」は戦前期を代表する絵雑誌です。収録画像の総数は約4,800点になりました。

(絵本ギャラリー : <http://www.kodomo.go.jp/gallery/index.html>)

また、著作権法の一部改正(2010年1月施行)により国立国会図書館では許諾なしにデジタル化することが可能となったため、4月から2011年5月にかけて、1968年以前に日本で刊行された児童書、約38,000冊、1970年以前の児童雑誌、551タイトルを、順次デジタル化しています。デジタル化した資料は国立国会図書館の三施設内で閲覧することができます。また、このうち戦前期に刊行された児童書は、著作権処理を行って、インターネットで提供する予定です。

### (イ) 情報提供の拡充

国内外の児童文学賞決定のニュース、世界の図書館関連の機関や国立の児童図書館のニュースなどの発信を増やしています。2008年は34件、2009年は49件、2010年は現在までに70件以上のニュースをお伝えしています。

(子どもと本の内外情報 : <http://www.kodomo.go.jp/resource/child/index.html>)

また、4月2日には、開館10周年記念及び2010年国民読書年記念展示「日本発☆子どもの本、海を渡る」の電子展示会も公開しました。

(電子展示会 : <http://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html>)

#### 4. 中央館との一体的な業務・サービスの推進

##### (ア) レファレンスサービスの強化

より効率的に資料探索やレファレンス・サービスを行えるよう、国立国会図書館全体での一体的な業務・サービスを推進しています。

調べものに有用な図書館資料やウェブサイト、各種データベース、類縁機関情報を、特定のテーマ、資料群別に紹介する「リサーチ・ナビ」では、「児童書」に関する調べ案内を随時追加しています。

(リサーチ・ナビ (児童書) : [http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/childbook/](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/childbook/))

全国の図書館等から寄せられるレファレンス事例などを収載する「レファレンス協同データベース」にも、当館の事例を随時追加しています。

(レファレンス協同データベース : <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>)

2010年8月5日からは、今まで公共図書館等に限られていたインターネット経由による文書レファレンスが、学校図書館からも申し込めるようになりました。

#### 5. 国内外の関係諸機関との連携・協力の強化

##### (ア) 図書館・関係機関との連携・協力

2010年以降、児童サービス関係者が、事例発表や意見交換を通じて相互に交流できる場として、児童サービス協力フォーラム (仮称) を開催する予定であり、準備を進めています。

さらに現在、文部科学省と連携・協力し、子どもの読書活動に関する情報を効果的に提供していく方法を検討しています。

また、2002年の「日中韓国民交流年」に実施されて以来、日中韓子ども童話交流にも協力しています。

(日中韓子ども童話交流 : <http://www.douwa-kids.com/ja/outline/index.html>)

##### (イ) 講演会

新たな試みとして、社団法人日本ペンクラブとの共催で、世界各国の児童書に関するイベントを「シリーズ・いま、世界の子どもの本は？」と題して開催しています。児童文学作家や翻訳者、研究者の方々に各国の児童書をめぐる事情についてご紹介いただいています。このシリーズを通して、世界の児童書が持つ魅力を広くご紹介できればと思います。

(シリーズ・いま、世界の子どもの本は? : <http://www.kodomo.go.jp/event/evt/bnum/evt2010-06.html>)

## 子どものための情報発信

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課  
五十嵐 麻理世

### 1. 国立国会図書館キッズページ

中期活動方針 2009 でも確認したように、インターネットサービスも「子どもと本のふれあいの場」として重要と考え、日本の子ども読書の日である 2010 年 4 月 23 日に、「国立国会図書館キッズページ」を新設しました。

図書館での調べ学習を本格的に始める小学校 3 年生程度を主な対象としています。子どもたちが図書館に興味をもち、身近な地域の図書館や学校図書館を利用するきっかけとなるよう、今後もコンテンツを充実させていきます。

「キッズページ」では、次の 5 つのテーマについて本や虫めがねのキャラクターがご案内します。

#### ○国立国会図書館を知ろう！

国立国会図書館の役割や歴史、仕事などを紹介します。

- ・ 館長のあいさつ
- ・ 国立国会図書館ってなんだろう？
- ・ 国立国会図書館のしごと：「図書館員の日」のコーナーでは、図書館で働く人の一日を紹介しています。
- ・ 見学について
- ・ たんけんしよう！：子どもが通常入れない館内をバーチャルツアーで見学できます。

#### ○国際子ども図書館を知ろう！

国際子ども図書館の役割や歴史、仕事などを紹介します。

- ・ 館長のあいさつ
- ・ 国際子ども図書館ってなんだろう？
- ・ 国際子ども図書館のしごと：「図書館員の日」のコーナーでは、図書館で働く人の一日を紹介しています。
- ・ 利用のしかた

- ・ たんけんしよう！：子どもが通常入れない館内をバーチャルツアーで見学できます。

#### ○図書館ってなんだろう？

どのようなところなのか、どのようなことができるのかなど、図書館や図書館サービスについて紹介します。

- ・ 図書館ってなにができるの？
- ・ いろいろな図書館
- ・ なぜなに質問箱：小学生が図書館に興味を持つ「きっかけ」となるお楽しみコンテンツとして、図書館ならではの道具などを、質問回答形式で紹介しします（掲載準備中）。

#### ○調べてみよう！

様々な本や調べ方の案内などを紹介します。

- ・ よんでみる？：毎月様々なジャンルの調べものに役立つ本を紹介しています。
- ・ しらべもの：学校図書館や参考図書（事典）を使い始める小学3年生を対象とした調べ方のガイド。調べものの第一歩として、図書館や参考図書の基礎的な使い方を説明しします（掲載準備中）。
- ・ キッズページリンク集

#### ○図書館じてん

小学生が図書館を使うときに知っている便利な用語を、写真も使いながら解説しています。

「キッズページ」は、子どものユーザビリティやアクセシビリティに配慮し、ページスクロールを必要としない構成で、子どもが集中力を維持しながら閲覧できるようコンテンツを簡略にしています。また、ブラウザの操作を実感できるように、マウスを乗せると画面が変化するようにしています。また、パソコンのない教室での授業でもご利用いただけるよう、各ページは印刷したときに1枚の用紙に収まるように設定しています。ユーザビリティについては、継続的にチェックし、一層の改善を図っていきます。

（国立国会図書館キッズページ：<http://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>）

## 2. 中高生向けのページ

インターネットサービスにおいても、子どもの年齢に応じたサービスを行うため、中高生の調べ物に役立つ情報等を発信します。

現在、内容や構成を検討中です。

## 3. 児童向け OPAC

国立国会図書館の「業務・システム最適化計画」（2008年3月策定）に基づき、国立国会図書館全体のシステム最適化を推進する中で、児童向け OPAC の開発にも取り組んでいます。

2012年以降に、公開する予定です。